

「キャプテンオンリー」ガイドライン

はじめに

敬意と公平さはサッカーの中核となる価値観であるが、主審やその他の審判員は、判定を下す際に言葉や行動による異議にたびたびさらされている。極端なケースでは、競技者に走り寄られる、取り囲まれる、あるいは威嚇されることもある。このような行為は、主審への敬意の欠如の表れであり、サッカーが作り出すイメージを損ない、審判員にとって脅威となり、動揺させかねないものである。以下に示される実施手順は、審判員と競技のイメージを守ると同時に、キャプテンにより大きな責任を与えることを目的として試行される。

主審とキャプテンの連携をより強化することで、公平性と互いの尊重を育むことができる。このような観点から、主審が重要な判定を説明できるように、敬意をもって行動し、適切に振る舞うことを条件にキャプテンのみが話しかける(アプローチする)ことが認められる。

以下の簡略化したガイドラインは、「キャプテンのみ」の原則を適用したい競技会主催者の手助けとなるはずである。この実施手順のすべてに従わなければならない、IFABの書面による承認がない限り、変更は認められない。

ガイドライン

- 競技者と主審との通常のやり取りは認められており、(透明性を高め、不満や対立の可能性を回避するために)引き続き重要である。
- (キャプテンを含め)言葉や行動で異議を示す競技者は、警告される(イエローカード)。
- 主審は、必要に応じて、キャプテンまたは事象にかかわった競技者に重要な決定について説明する。
- 重大な状況や重要な事象または決定の後に、競技者が主審を威嚇したり取り囲んだりするのを防ぐために;
 - 各チームから主審に話しかけることができるのは1人の競技者のみ(通常はキャプテン)であり、話しかける際には常に敬意を持って接しなければならない。
 - 主審は、他の競技者に主審自身とキャプテンに近づくことがないように(口頭または身振りで)指示、または促すことができる。
 - チームキャプテンは、チームメイトを主審から遠ざけるように働きかける責任がある。
 - 許可されていないのに主審に近づいたり、取り囲んだりする競技者は、警告されることがある(イエローカード)。
 - 必要に応じて、主審は、キャプテンがチームメイトに決定を説明したり、適切な行動を求めるなどの話しをする時間を与えるために、プレーの再開を遅らせることがある。
- 例えば競技者が反則を行なった、ファウルを受けた、または負傷した場合、キャプテン以外のどの競技者とやり取りするか、どの競技者が主審に話しかける(アプローチする)ことを認めるかは、主審の裁量に委ねられる。

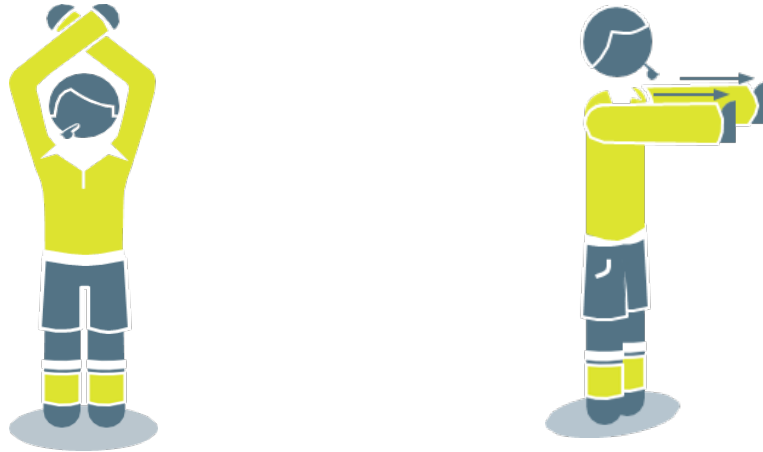
キャプテンがゴールキーパーの場合

- ゴールキーパーがキャプテンである場合、ゴールキーパーの代わりにどの競技者が主審に話しかける(アプローチする)ことになるのかを、キックオフ前のコイントスまでに主審に伝えなければならない。
- 主審に話しかける(アプローチする)ことができるのは、ゴールキーパーか、指名された競技者のどちらか一方のみである
- 指名された競技者が交代または退場になった場合、他の競技者を指名しなければならない

ユース、年長者、障がい者およびグラスルーツ向けのオプション

以下のガイドラインは、ユース、年長者、障がい者およびグラスルーツのサッカーにのみ適用することができる。

- 主審は笛を吹き、次のシグナルを使用して「キャプテンオンリー」の実施手順を開始する。
 - 両腕を頭上に上げ、手首のところで交差させる。
 - 腕の交差を解き、手のひらを開いた状態で体の前に動かし、前方に押し出す動作で競技者が近づいてはならないことを示す。



- キャプテンオンリーゾーンは、主審の周囲4メートル(4.5ヤード)におよぶ。
 - 必要に応じて、主審はキャプテンオンリーゾーンを確保するために競技者から離れることがある。
 - (キャプテンとして)識別できるアームバンドを着用したチームキャプテン以外の競技者は、キャプテンオンリーゾーンに入ることができない。
 - キャプテンには、キャプテンオンリーゾーンを尊重し、主審から少なくとも4m (4.5ヤード) 離れた状態であることをチームメイトに促すというある程度の責任がある。
 - キャプテン以外の競技者がキャプテンオンリーゾーンに入った場合、反則した競技者は行動による異議として警告されるべきである(イエローカード)。
 - 同じチームの複数の競技者がキャプテンオンリーゾーンに入った場合、少なくとも1人の競技者は警告されなければならない(イエローカード)。通常、警告の対象となるのは、キャプテンオンリーゾーンに入ることが認められていないにも関わらず入った最初の競技者、または近づき方が最も攻撃的な競技者である。
 - 同じチームの複数の認められていない競技者がキャプテンオンリーゾーンに入った場合、試合後に関係機関に報告しなければならない。*
- * チームの複数の競技者がキャプテンオンリーゾーンに入った状況に対処するため、競技会主催者が罰則を設けておくことを強く推奨する。